



光る知性 豊かな心 強い意志

南 中 生

長井市立長井南中学校

令和 5 年 10 月 31 日

校長 赤間 幸生

78年前に思いを馳せる

平和へのメッセージ

10月22日（日）長井市戦没者追悼式が長井市民文化会館で行われました。本校より3年生 高梨瑚桃さんが参列し「平和へのメッセージ」を堂々と発表しました。瑚桃さんの話に大きく頷く方、思わず拍手をなさる方、戦争を知らない中学生ではあるものの、平和への思いや願いは共感を呼んでいました。



今や日本人の8割以上が戦後生まれ。被爆者の平均年齢は86歳を超えました。平和とは忘却との戦い。今を生きる中学生として、その親として、78年前に思いを馳せ、改めて戦争と向き合い、平和について希求する時を共に持ちたいものです。

「世界中が幸せと笑顔であふれますように」 3年 高梨 瑚桃 さん

「被爆者なき時代が近づいている。」

これは、2学期の始業式で校長先生が私達に伝えて下さった言葉です。実際、私の家族や身近な親せきに戦争を知る人は誰もいません。その言葉の通り、身近に戦争を体験した人がいない時代がやってきます。そのため私は、社会の授業やテレビの報道から平和の素晴らしさ、戦争の残酷さを感じています。

8月15日終戦記念の日。テレビでは戦争の悲惨さや残酷さを報じる特集が組まれていました。その映像は、目を背けたくなるものばかり。市民が防空壕に避難している様子、女性が竹やりを持って戦闘訓練をする姿、その当時の過酷さに心が重くなりました。中でも特に私の心に残ったのは、川に大量に浮いた死体です。この死体は、原子爆弾が落とされた際に水を求めて川に飛び込み、そのまま亡くなってしまった人たちや苦しみながら命を落とした人たちです。このことを思うと胸が引き裂かれるような思いでした。私たちは現在中学生。当たり前のように登校し、当たり前のように授業を受けています。戦時中の中学生にはそんな「私たちの当たり前」は一切なかったのでしょうか。防空訓練や武術訓練などの鍛錬を行っていたため、勉強する時間がありませんでした。そのことから「私たちの当たり前」がいかに幸せなことかを実感しました。

1945年の8月6日、広島で4万人の命が奪われました。その3日後の8月9

日には、長崎で7万4千人の命が奪われました。78年たった今でもその日のことは、大きく大きく取り上げられています。東京大空襲や沖縄戦争など、数え切れない尊い命が戦場で消えていきました。

戦争とは、人間の暗い部分が現れる時に起きるもの。平和を崩壊させる悲劇でしかありません。「戦争という惨禍を二度と起こさない」という強い意志を国民全体で持ち続けることが重要だ。」と、原爆で奪われたたくさんの命が私に訴えかけてきます。

私はこれから先の時代も戦争の残酷さを忘れず、平和を守り続けていくために大切なことは何かと考えました。それは、「もの言わぬ核兵器の証言者から、学び取る感性を身につけること」。そして「語り継ぐこと」です。戦争について学んでいくと、目を背けたくなる事実や映像があります。それをしっかり目に焼き付け、私の心は何を感じたのか、それを私が大人になった時、語り継いでいくことで、戦争の怖さを伝えなければならないと強く思います。戦争という惨禍を二度と引き起こさないために世界中の人が平和を守り続けるという意味を持ち続けることで平和な世界をつくり上げることができます。世界中が幸せと笑顔であふれるものになることを強く願います。



栄光の記録



◇ 長井市防犯作品コンクール 標語の部

最優秀 大塚龍之心 「疑って! 相手は騙しの プロだから」
 優良 小杉 夏帆 「SNS 見えない顔と 消えない言葉」
 佳作 遠藤 歩子 「一度だけ 軽い気持ちで 戻れない」

◇ 第29回日本管楽合奏コンテスト予選審査会

中学生A部門 優秀賞

◇ 山形県防犯作品コンクール 標語の部

優秀 大塚龍之心 「疑って! 相手は騙しの プロだから」
 優良 小杉 夏帆 「SNS 見えない顔と 消えない言葉」



◇ 山形県中学校新人体育大会 南ブロック大会

- 卓球男子団体 優勝 < 県決勝大会進出 >
- 卓球男子個人 第1位 木村 眞大 < 県決勝大会進出 >
- 第2位 後藤 巧成 < 県決勝大会進出 >
- 柔道男子個人階級別 第3位 保科 諒太 < 県決勝大会進出 >
- 剣道女子個人 ベスト8 池田 紗空 < 県決勝大会進出 >